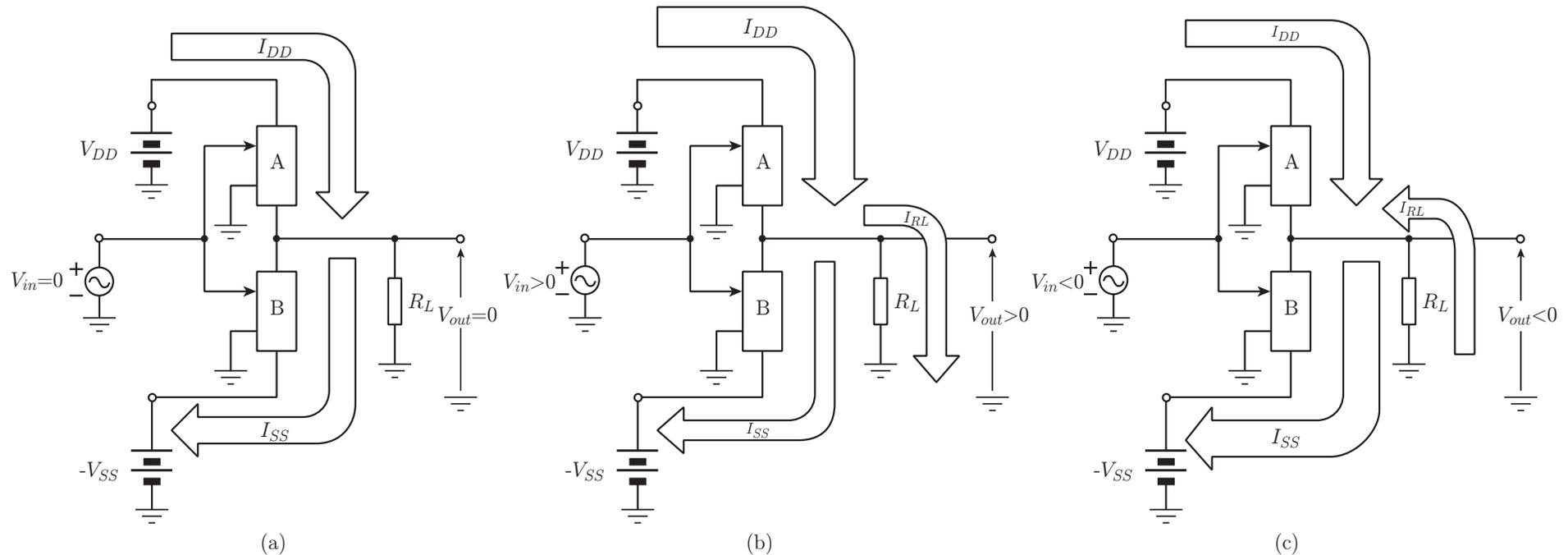


信号増幅とその実現

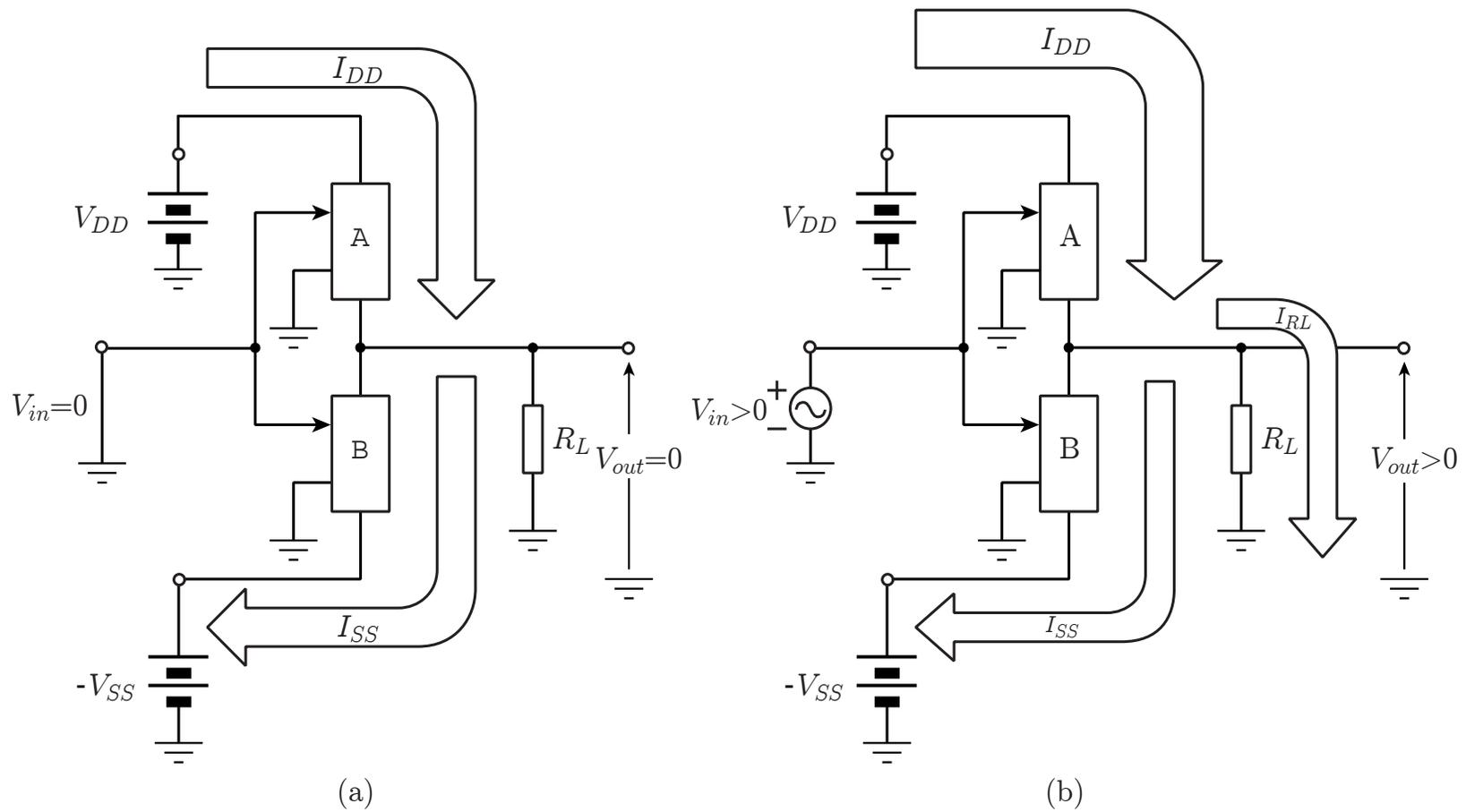
信号増幅とは



$V_{in}=0$ のとき $I_{DD}=I_{SS}$ なので抵抗 R_L には電流は流れない

$V_{in}>0$ のとき $I_{DD}>I_{SS}$ なので抵抗 R_L に $I_{RL}=I_{DD}-I_{SS}$ が流れる

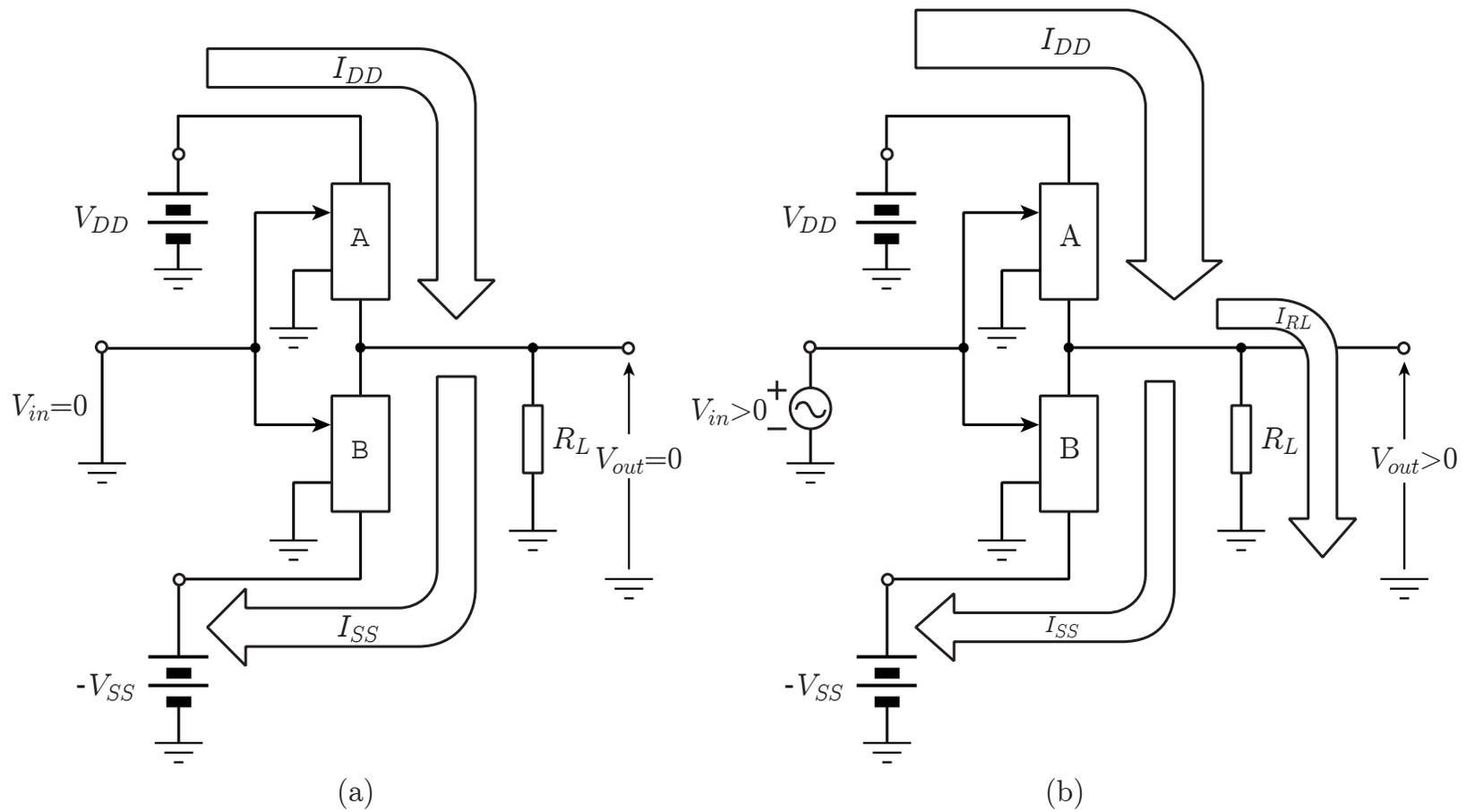
$V_{in}<0$ のとき $I_{DD}<I_{SS}$ なので抵抗 R_L に $I_{RL}=I_{SS}-I_{DD}$ が流れる



小さな V_{in} でも大きな電流 I_{RL} が流れれば

$$V_{out} = R_L I_{RL} > V_{in}$$

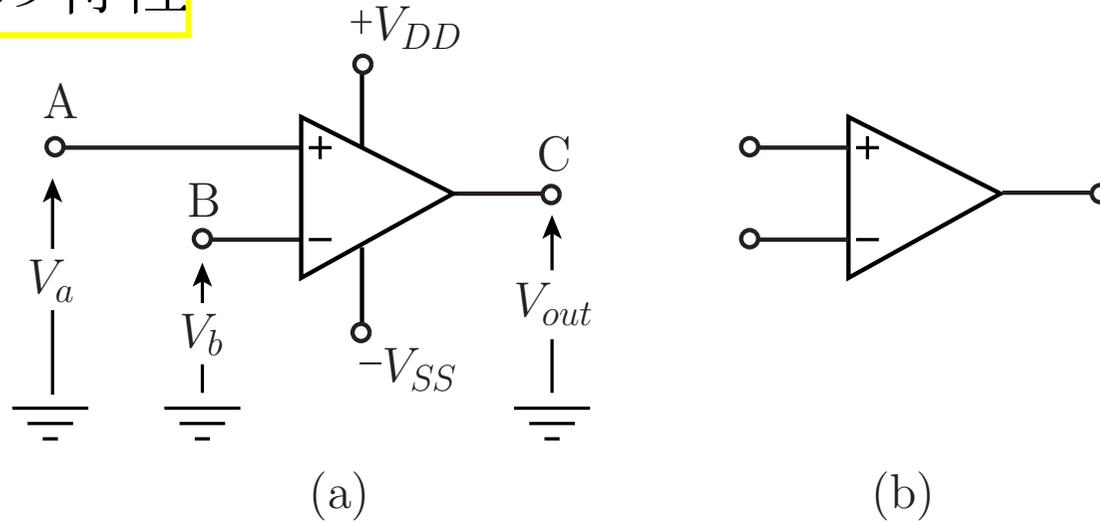
となり得る(これが増幅)



増幅とは電源が供給する直流電力の一部を
信号電力に変換すること

演算増幅器を用いた信号増幅

演算増幅器の特性



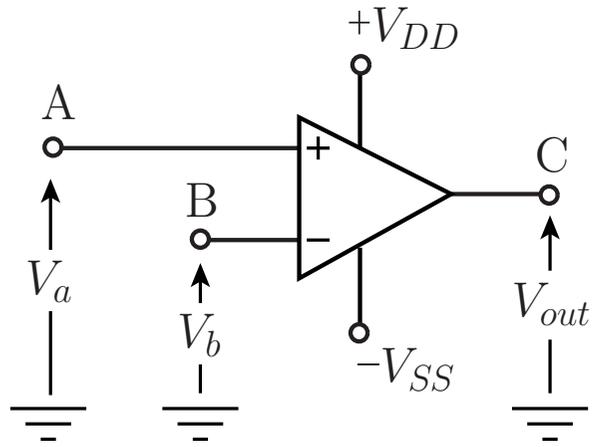
A : 非反転入力端子

B : 反転入力端子

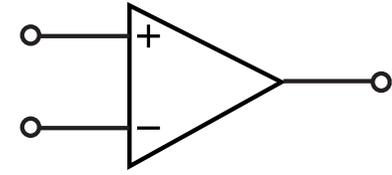
C : 出力端子

V_{DD} : 正の直流電圧源

$-V_{SS}$: 負の直流電圧源



(a)



(b)

$$V_{out} = A_d(V_a - V_b) + A_c \frac{V_a + V_b}{2}$$

A_d : 差動利得

A_c : 同相利得 (教科書では零としている)

ナレータとノレータ

$V_{out} = A_d(V_a - V_b)$ を $V_a - V_b$ について解く

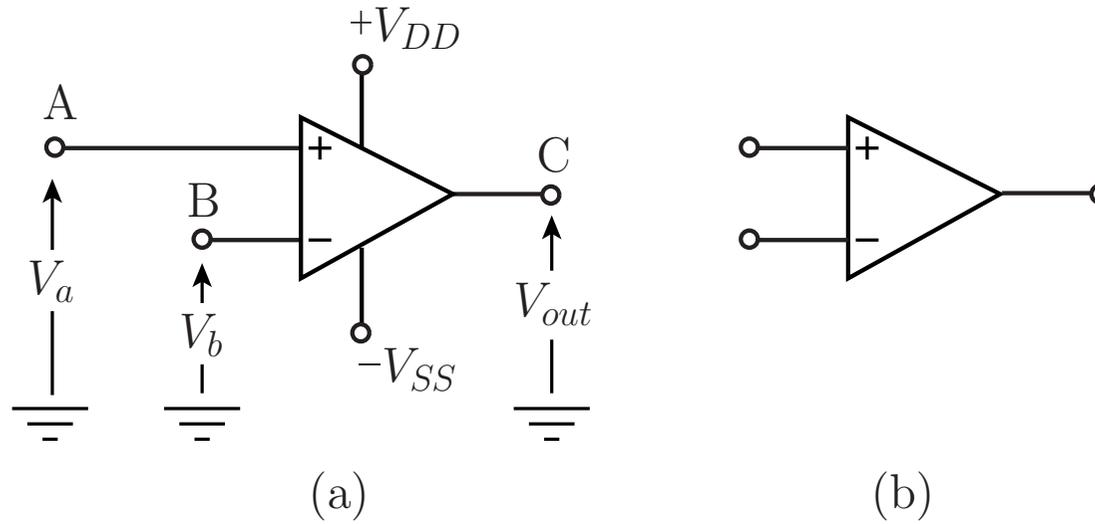
$$V_a - V_b = \frac{V_{out}}{A_d}$$

一般に差動利得は十分大きいので $A_d \rightarrow \infty$ とする

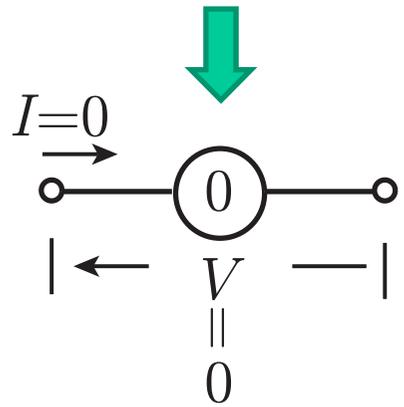
$$\lim_{A_d \rightarrow \infty} V_a - V_b = \lim_{A_d \rightarrow \infty} \frac{V_{out}}{A_d} = 0$$

(ただし, V_{out} が有限の場合)

端子Aと端子Bは短絡されているのか？

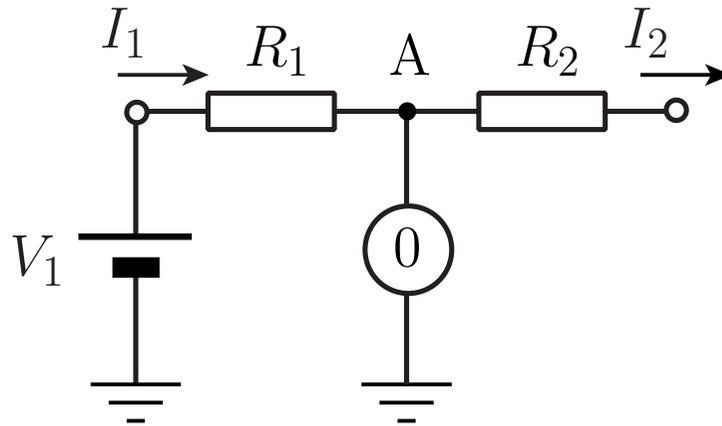


端子Aと端子Bの電位差は零
 端子Aと端子Bには電流が流れない



ナレータ

ナレータだけだと



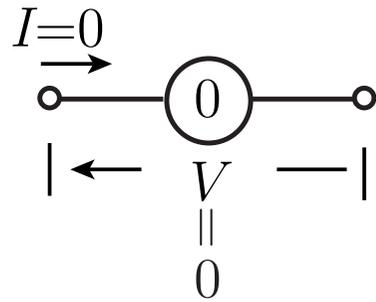
節点 A の電位は零なので $I_1 = V_1 / R_1$

ナレータには電流が流れないので $I_2 = I_1$

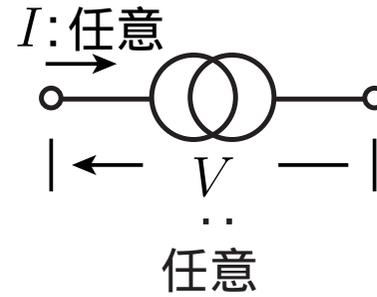
R_2 の片端には何も接続されていないので $I_2 = 0$?

矛盾!

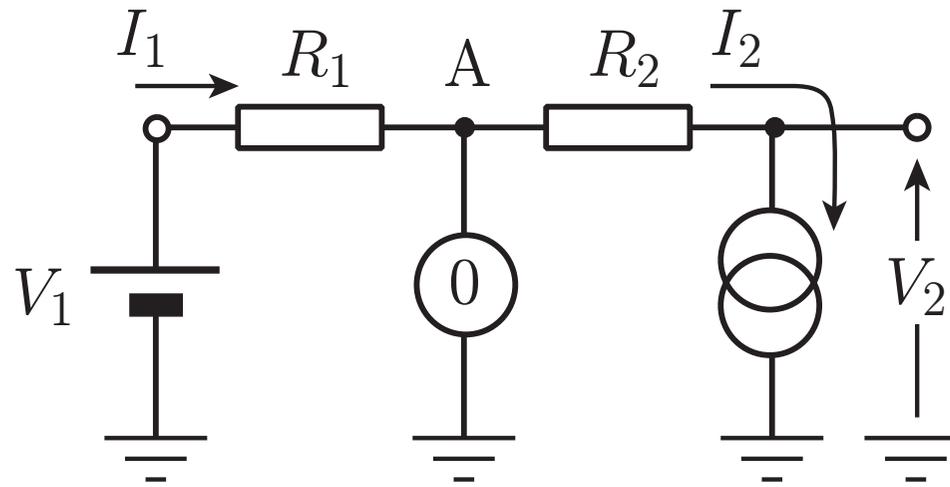
ノレータによる解決



(a) ナレータ

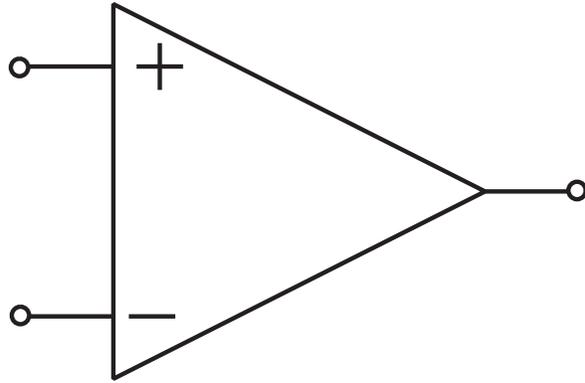


(b) ノレータ

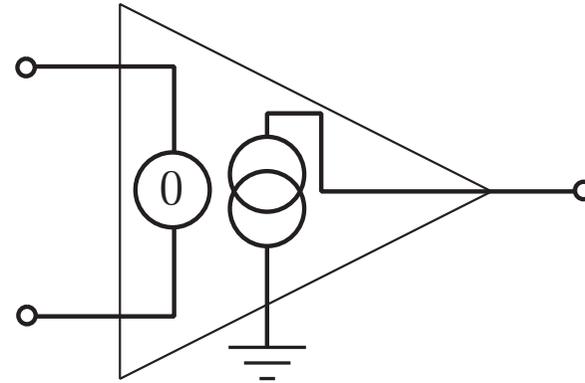


ノレータではなく，抵抗などでは
 V_2 や I_2 が定まらないことに注意

ナレータとノレータを用いた理想演算増幅器の等価回路

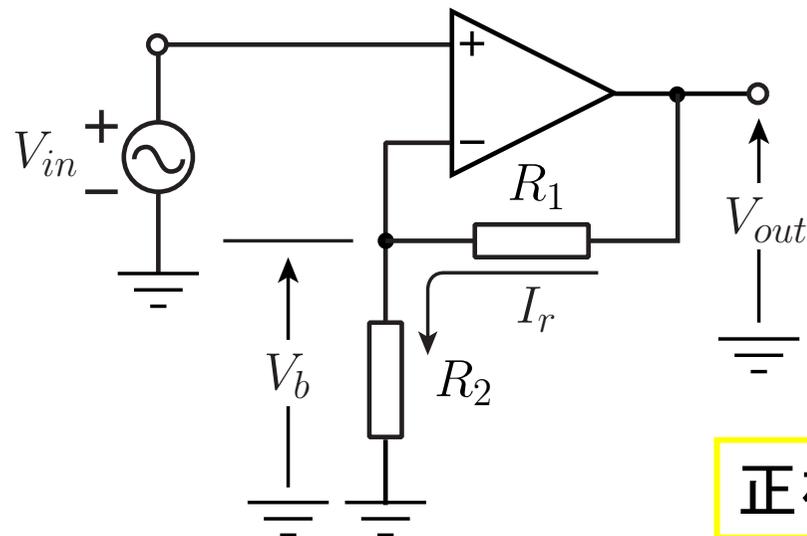


(a)



(b)

演算増幅器を用いた回路



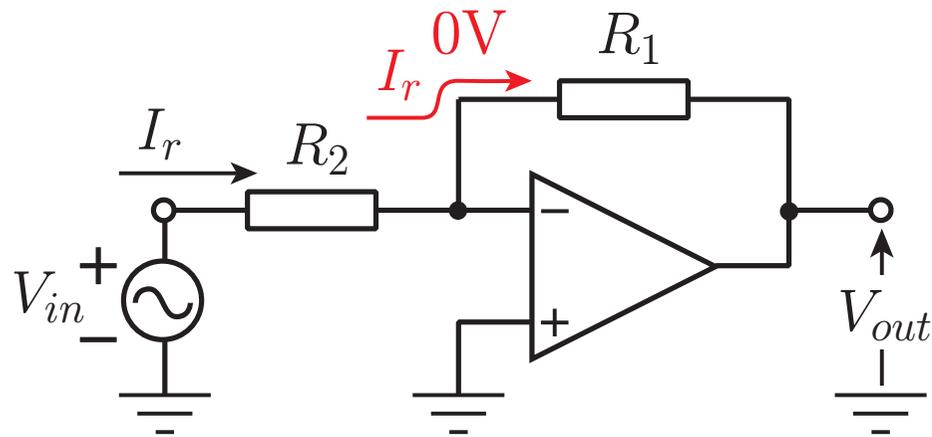
正相増幅回路

$$I_r = \frac{V_{out}}{R_1 + R_2} \quad \longrightarrow \quad V_b = R_2 I_r = \frac{R_2 V_{out}}{R_1 + R_2}$$

$$V_{in} = V_b \quad \longrightarrow \quad V_{in} = \frac{R_2 V_{out}}{R_1 + R_2}$$

$$V_{out} = \left(1 + \frac{R_1}{R_2}\right) V_{in}$$

$1 + \frac{R_1}{R_2} > 1$ なので増幅



逆相増幅回路

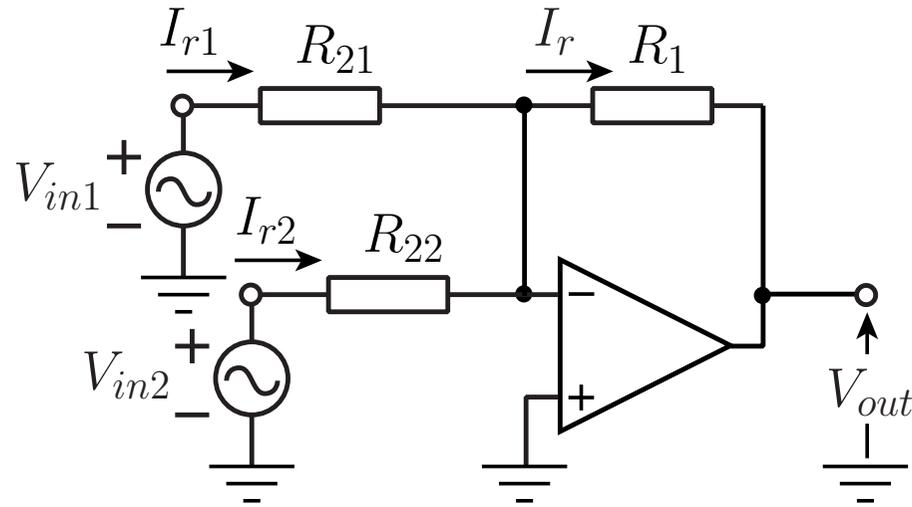
$$I_r = \frac{V_{in}}{R_2}$$



$$V_{out} = 0 - R_1 I_r = -\frac{R_1}{R_2} V_{in}$$

$\left| \frac{R_1}{R_2} \right| > 1$ ならば増幅

$-\frac{R_1}{R_2} < 0$ なので逆相



加算回路

$$I_{r1} = \frac{V_{in1}}{R_{21}}$$

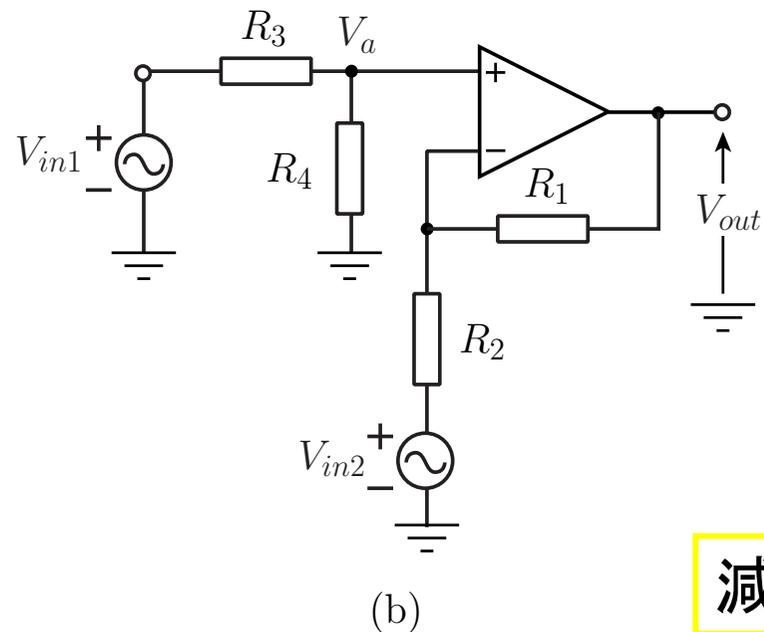
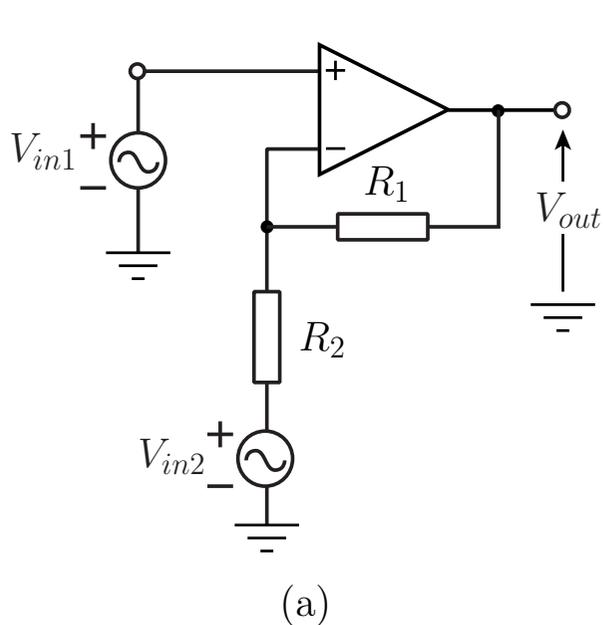
$$I_r = I_{r1} + I_{r2} \quad \longrightarrow \quad V_{out} = -R_1 I_r = -\frac{R_1}{R_{21}} V_{in1} - \frac{R_1}{R_{22}} V_{in2}$$

$$I_{r2} = \frac{V_{in2}}{R_{22}}$$

$R_{21} = R_{22} = R_2$ のとき

$$V_{out} = -\frac{R_1}{R_2} (V_{in1} + V_{in2})$$

V_{in1} と V_{in2} の加算を実現



減算回路

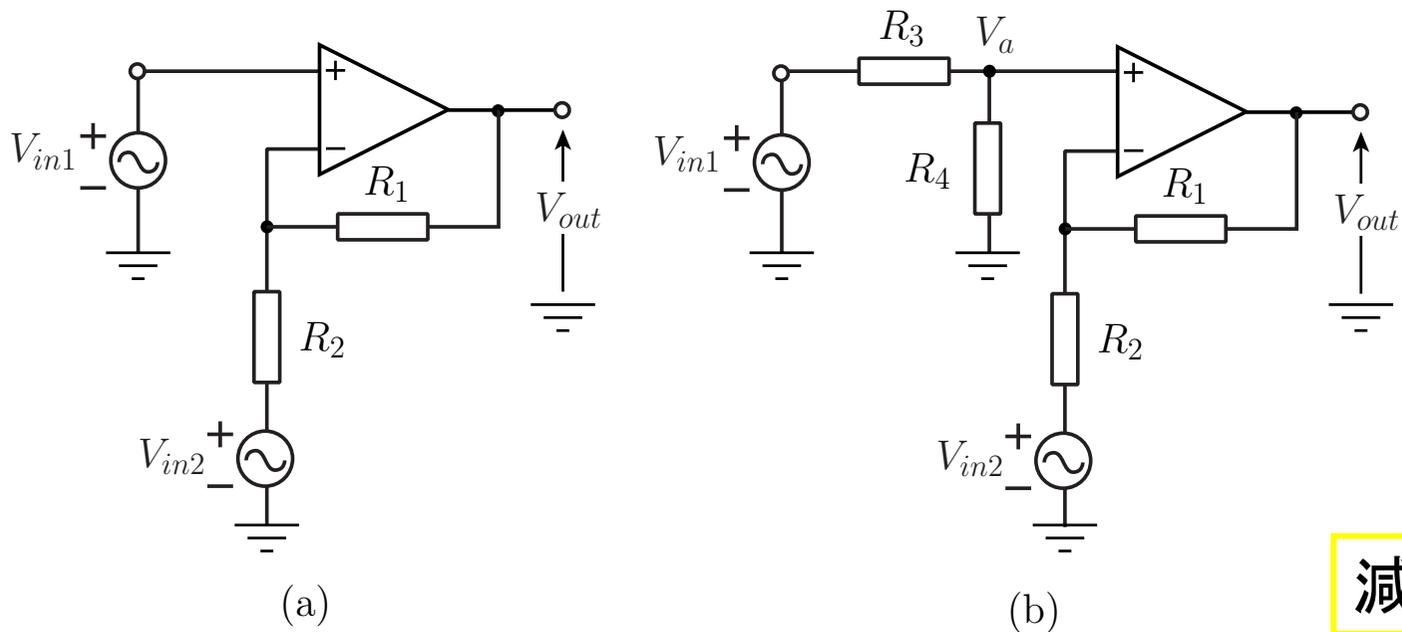
重ね合わせの理より(a)の回路では

$$V_{out} = \left(1 + \frac{R_1}{R_2}\right) V_{in1} - \frac{R_1}{R_2} V_{in2}$$

V_{in1} の成分を減らせば $V_{in1} - V_{in2}$ を実現可能



(b)の回路により実現



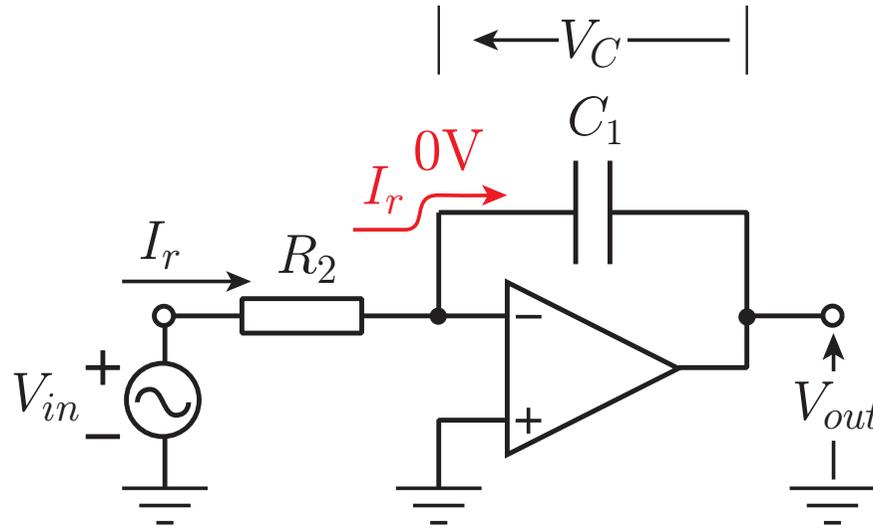
減算回路

(b)の回路では V_{in1} の成分が R_3 と R_4 によって減衰

$$V_{out} = \left(1 + \frac{R_1}{R_2}\right) \frac{R_4}{R_3 + R_4} V_{in1} - \frac{R_1}{R_2} V_{in2}$$

$R_1 R_3 = R_2 R_4$ とすると

$$V_{out} = \frac{R_1}{R_2} (V_{in1} - V_{in2})$$



積分回路

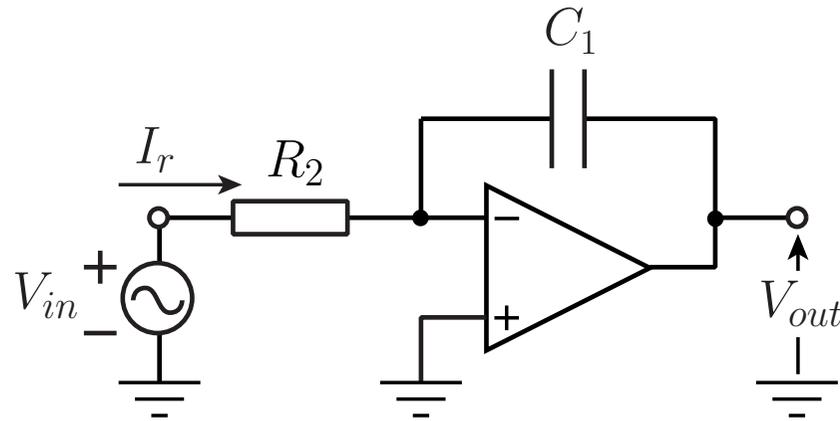
$$I_r = \frac{V_{in}}{R_2}$$

$$I_r = C_1 \frac{dV_C}{dt}$$



$$V_{out} = -\int \frac{I_r}{C_1} dt = \frac{-1}{C_1 R_2} \int V_{in} dt$$

$$V_{out} = -V_C$$



積分回路

複素表示を用いると

$$I_r = \frac{V_{in}}{R_2}$$

$$I_r = j\omega C_1 V_C$$

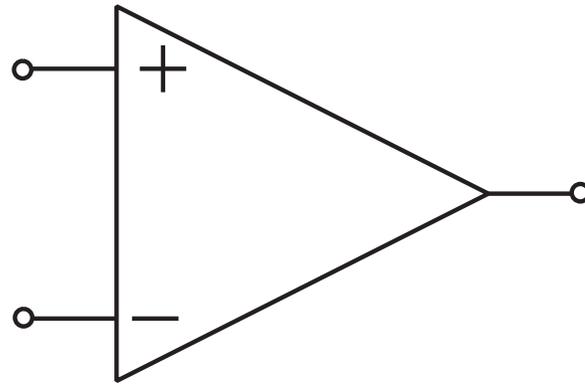


$$V_{out} = \frac{-1}{j\omega C_1 R_2} V_{in}$$

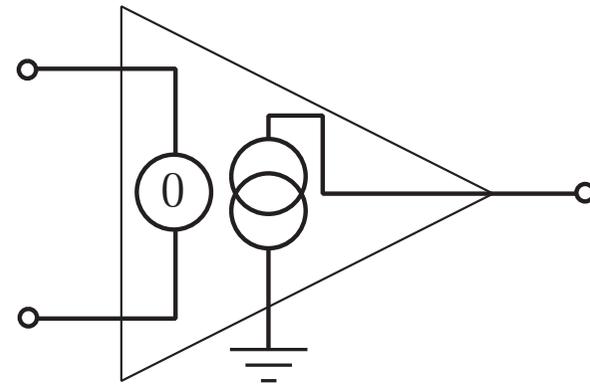
$$V_{out} = -V_C$$

$\frac{1}{j\omega}$ は積分を表す演算子

$j\omega$ は微分を表す演算子



(a)



(b)

演算増幅器を用いれば工夫次第で
様々な回路を実現可能！